

## 10月オンライン茶話会報告

ワーカーズ・コレクティブ協会の設立から就労支援へ～未来につなぐ想い

10月12日、Sen100号記念企画として9人のゲストスピーカーをお招きして、多様な方達の「働きたい」と共に歩んだ協会の挑戦を振り返りました。

- 酒井由美子さん(ワーカーズ・コレクティブミズキャロットすすき野):協会の初代理事長として
- 一色節子さん:コミュニティキッチンぽらんに関わって
- 林奈保子さん(ワーカーズ・コレクティブにんじん元代表):反町カフェぽらんの立ち上げと現状
- 近藤裕子さん(元ワーカーズ・コレクティブじゃがいも会):若者たちとの出会い
- 宮川典子さんと現理事長高橋洋子さん(さくらんぼ):若者を受け入れて
- 並木公子さん(ワーカーズ・コレクティブキャリア):若者をメンバーに迎えて
- 今関喜代子さん:ハローワーコレ大作戦(コミュニティワークの冊子を6回発行)
- 唐沢明男さん(ワーカーズ・コレクティブはっぴいさん):設立から歩んで11年

年表で振り返りながらゲストスピーカーの方々から当時を語っていただきました。

(酒井)神奈川ワーカーズ・コレクティブ連合会とは違う、ワーカーズ・コレクティブ運動の社会化に特化した中間支援組織をめざした協会。2005年、横浜市の知的障害者体験実習コーディネート事業受託では、働きたい人たちとどうやってやれるか、障害について何も知らない人たちでやったのが強みで、この体験は以後の就労支援を拓く力になった。早い時期から協会では就労支援は生活支援が課題と捉え、丁寧な振り返りで情報を出し、本人の自信につなげ、現場からも協会が大きな働きをしていることが把握できるようになった。

(一色)コミュニティキッチンぽらんをつくった時、みんなの気持ちが一つになった。ぽらん1周年と協会5

周年を記念してイタリア映画「やればできるさ」をオランダ館で上映、前を向いて楽しいことを想像してやれば「やった!と後悔しない」、協会はずっとそれできている。

(林)カフェぽらんは5年を経て地域に根差した活動へと広がった。就労支援にはハードルが高い仕事がかフェ、「ここまで出てこられて良かったね」の気持ちで接している。

(近藤)料理が好きな若者の受け入れではメンバーが真剣に考え、賛否ありながらもメンバーになり一生懸命やってくれた。多様な世代の人たちがいるのが良さだった。

(宮川、高橋)たくさんの事情を抱えた人たちを受け入れてやれているのは初代理事長伊藤保子さんのお陰、現在の事業展開の中でも協会での学びが土台にある。

(並木)2007年、配送業務の倉庫作業で若者の受け入れ開始、任せられる範囲を徐々に広げメンバーとして受け入れ、15年を経た現在も続けている。

(今関)協会が一所懸命やっているのを見て役に立てたらとコミュニティワークの情報誌づくりに関わった。こういう活動があるなど色々勉強になり楽しかった。

(唐沢)ワーカーズ・コレクティブに入って僕の人生は変わった。今は居場所が沢山あり人生が充実したと感じている。

ワーカーズ・コレクティブは課題も多く平坦な道ではないが、社会の課題と向き合い就労支援に取り組み、働き場であり居場所であり暮らすことの運動を物語のようにつなげ広げてきたことが皆さんのお話から分かりました。「失敗しても楽しくやれたらいいのよ」が心に響いたとさくらんぼの高橋さん。次世代に伝えたいメッセージです。(中村久子)



